



斎館並びに参拝者休憩所竣工（平成21年11月4日）

<http://www.okunijinja.or.jp>

## 年末を迎えて

天皇陛下御即位二十年、天皇后両陛下御結婚五十年をお迎えになられた慶賀の年に、予てより順次進めてまいりました御鎮座千四百五拾年記念事業は、この度最終事業である「斎館並びに参拝者休憩所」が竣工し、「古代の杜」の護持発展を大義とする今次の記念事業は完遂致しました。長きに渡り多くの氏子崇敬者の皆様方には心温まる御奉賛、御支援を戴きましたこと深甚なる感謝と敬意を表し厚く御礼申し上げます。この上は祭祀の厳修と御神徳の宣揚に努め、さらなる御社頭の御隆昌に関係者一丸となり力を注ぐ所存であります。

さて、この新築された斎館では、祭典奉仕の祭員が心身を浄め参籠し、装束を着装し参進致します。また神幸祭及び節分祭等では、ご奉仕される氏子崇敬者の皆様方が大紋をはじめとする装束に着替え、祭典奉仕に臨みます。装束室では祭典別の衣装が集中管理出来るようになりました。また、結婚式の新郎新婦及び親族控室は、利用者のご要望に応え椅子席にて対応させて頂きました。新しい施設を利用し永く心に残る厳肅な結婚式が斎行できるよう、今後も努めてまいります。さらに手狭でありました参拝者休憩所は広く明るくなり、樹齢三五〇年の境内杉を使用した机や暖房設備も設置いたしました。懸案であったお手洗いも併設し、ゆとりのある休息が出来ること存じます。南側のスロープを進むと二階に研修室が今回新設されました。一〇〇平米あり、軽量の椅子が一〇〇席弁備されています。当社ではこの研修室を文化活動の拠点と位置付けており、その皮切りとして鳥居禮画伯の「新大和絵の世界展」が開催されました。神社境内の特色ある施設にて、文化講演会や様々な展示会などに幅広く利用され、素晴らしい教養や美德に触れ親しんで戴けたらと存じております。何れに致しましても、ご参拝の折りは十分にご利用戴きまして、ご意見等をお寄せ戴ければ有り難く存じます。

昨年グラランドオープンした崇敬者の運営による「小國ことまち横丁」と「宮前蕎麦・かんなび」ですが、一年を通して多くの参拝者の方々にご利用戴きました。また、門前町に蒔菟製造の老舗「俵久米吉」が新たに本社を移転し、店頭販売も実施しております。今秋の紅葉狩りの折りに、お立ち寄りになられ楽しまれた方も居られると存じます。神社参拝の新名所として、益々ご発展されますことを期待いたします。

師走も末になり丑年もあと僅かとなり、大晦日には大祓式を斎行致します。氏子崇敬者の各位におかれましては、呉々もご自愛の上良い寅年をお迎えくださいますようお願い申し上げます。

「齋館並びに参拝者休憩所」の竣功

平成十七年より進めてまいりました御鎮座二四五〇年記念の三期に亘る事業が、十一月十日に最終事業であります「齋館及び参拝者休憩所」の竣功奉告祭を斎行し完遂となりました。この間氏子崇敬者の皆様を始め関係者各位には格別なる篤志を賜り厚く御礼申し上げます。

お陰をもちまして既に齋館階は結婚式において使用し、二階の齋室も祭典時に使用しております。また、休憩所は車イスでの出入りとスロープをご利用いただければ二階研修室への移動が可能となっております。別途トイレ棟を設け、利便性も向上し参拝者の皆様におくつろぎいただいております。さらに、研修室におきましては柿落としたしまして伊勢神宮収蔵作家であります鳥居禮先生の「新大和絵の世界展」(前期)を開催いたしました。

この度の記念事業にて新されました建物等を有意義に活用し、更なる「古代の杜」の護持に反映させていただく所存でございます。今後皆様も格別なご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



齋館・齋室



結婚式親族控室



装束室



研修室



参拝者休憩所



参拝者用お手洗 (オストメイト対応)



南側・スロープ

### 新嘗祭の齋行・奉納農産物品評会の表彰

境内の紅葉が色付き、大勢の参拝者で賑わう十一月二十三日、新嘗祭が齋行されました。

ご神前には氏子の皆様方よりご奉納いただきました農産物をお供えし、大前に今年一年の豊穰をご奉告、感謝申し上げます。

また、舞殿横にて当社振興会の主催により、今回で五十三回目を迎える奉納農産物品評会が開催されました。

氏子の皆様方より出品をいただきました三二九点もの奉納農産物は、新嘗祭齋行後の即売会にて大盛況のうちに完売となりました。

ここに品評会にて受賞された方々をご報告させていただきますとともに、ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。  
(協力賞)



奉納の農産物 (11月23日)

- 第一位 牛 飼部農会
- 第二位 上川 原部農会
- 第三位 橘 部農会
- 第四位 中川 上部農会
- 第五位 宮代 西部農会

#### 〈小國神社賞〉

米 中川上 鈴木 定男

白菜 中川上 小林 利雄

大根 宮代東 大場 正一

茶 中川上 本多 利吉

治郎柿 谷 中 朝比奈秀昭

〈遠州中央農業協同組合代表理事賞〉

生薑 橘 白幡 富幸

米 中川上 永田 英子

レタス 中川上 石黒 寛

サツマ芋 宮代西 小川 敏子

治郎柿 谷 中 朝比奈輝男

〈小國神社振興会賞〉

大豆 大久保 天野 誠策

かぶ 牛 飼 半田 常夫

ネギ 中川上 小林 利雄

里芋 円田下 鈴木 照男

メロン 米 倉 平田 秀幸

〈特等賞〉

小豆 片 瀬 山浦 捷征

キャベツ 円田下 鈴木 和則

椎茸 橘 高木 一彦

馬鈴薯 赤 根 高柳猪佐男

ゆず 円田下 久野 節生

〈特別賞〉

十二点出品 円田下 鈴木 照男

(敬称略)



菊花展 (11月5日)

### 篤志奉納者に感謝状の贈呈

十二月二十三日の新嘗祭に併せ、篤志奉納者に感謝状と記念品が贈呈されました。毎年、一年を通じ物品等をご奉納いただいた方と神饌米を継続してご奉納いただいた方(三年ごと)にご神前で感謝を申し上げます。

本年ご奉納いただきました方々のご芳名を記載し、改めて厚く御礼申し上げます。

刀振・池田鬼神丸国重 大沼 攸子 睦 実  
木製 花台・菓子皿 木創工房  
森童 小坂 定(森)

献茶用 社紋入り茶碗及び天目台 煎茶道静風流  
天野 智堂(大久保)

神饌米 鈴木 孝(円) 田 倉  
石橋 寛(一) 米 倉  
村松伊佐雄(牛) 飼  
(順不同敬称略)

神饌米 神饌米



毎月の月次祭に(株)久米吉より奉納される「一宮様献上こんにやく」

### 「鳥居禮」展の開催

当社の齋館・参拝者休憩所の竣工を記念し、伊勢神宮収蔵作家で知られる鳥居禮画伯の個展「新大和絵の世界展」が十一月二十二日～十二月十三日まで開催されました。さらに明年一月二日～一月十七日までは後期展として実施されます。

鳥居画伯は、日本古来の伝統文化である大和絵を現代手法に転換し、新大和絵として見事な作品を生みだしている。日本画家であります。展示作品の中には、今回の個展のために描かれたという当社十二段舞楽「色香舞」の作品もあります。また、前後期とも展示作品が異なりますので、是非ともご覧いただき鳥居禮画伯による日本美の真の姿をご体感下さい。



鳥居 禮画伯(左) -新大和絵の世界展-

# 第七回「写真コンテスト」のご報告

去る七月二十二日、三四二点の応募点数から厳正な審査の結果各賞が決定され、関係機関にて発表いたしました。表彰式は八月九日に小國神社拝殿において受賞者の正式参拝後実施いたしました。また、作品展は八月四日から八月十八日までの期間、森町文化会館一階ギャラリーにて入賞作品を含めた五十点の作品を展示いたしました。

開催にあたりご協力くださいました各後援・協賛者の皆様方に改めて厚くお礼申し上げます。尚、第八回より作品展を小國神社休憩所二階の研修室にて開催いたします。



最優秀賞・鈴木 はつ代 「初夏」



特別賞・今枝 進 「新緑のせせらぎ」



御鎮座千四百五拾年記念事業  
御奉賛者御芳名(十二)  
(順不同、敬称略平成十七年一月一日〜平成二十一年十二月十日迄)  
※記載額は奉賛金の総額となります

## 一宮・橋地区

### 伍拾萬圓以上

市川 寿

### 貳拾萬圓以上

鈴木 玉次

### 壹拾萬圓以上

野口 栄一

榊原 啓之

菅沼 保夫

石田 征夫

永田 佐吉

### 参萬圓以上

森松 利元

山田 茂

山田 光彦

### 一園田地区

### 伍拾萬圓以上

### 参拾萬圓以上

加藤 正昭

小野 優

### 壹拾萬圓以上

村松二美男

田中 誠

村松 岩夫

藤田 昌利

### 参萬圓以上

鈴木 富美江

### 参拾萬圓以上

鈴木 征夫

袴田 恵大

### 壹百萬圓以上

雪島喜久子

### 貳拾萬圓以上

金原 光春

### 壹拾萬圓以上

寛 利夫

坂中 美直

### 参萬圓以上

桑原 宏一

瀧明 宏

鈴木 正治

### 小谷 晃資

大工具(株) 羽田 勇

鈴木 幸夫

鈴木 正夫

(株)神路社 大平 佳樹

測上 孝子

佐原 隆治

土屋 文

小國 龍也

宮澤 稔行

佐々木一樹

佐藤 貞良

匿 名

大久保素直

大久保義郎



宮川・石橋の奉納 (12月8日)

「紅葉まつり」の開催

十一月二十九日、紅葉の見頃を迎えた境内において恒例の「紅葉まつり」を開催いたしました。早朝より多くの参拝者が訪れる中、舞殿におきまして琴の奉納演奏、斎館前や宮川沿いでは野点が行われました。また、甘酒や当社敬神婦人会によるおしるこ、菓子青年会によるおはたき餅が振る舞われました。

日中の森に差し込む光を浴びた紅葉は光り輝き神々しさを感じさせ、また夜間のライトアップに映る紅葉は荘厳な趣きがあり、ご参拝の皆様方に晩秋のひとつときをお楽しみいただきました。



紅葉まつりの野点（山下社中）（11月29日）



敬神婦人会親睦旅行・高瀬神社正式参拝（7月17日）



総代会視察研修旅行・北海道神宮正式参拝（9月3日）

命名

平成二十二年五月一日  
平成二十一年十一月三十日

荒井	鈴木	石田	永田	島村	米田	小池	山下	尾崎	齋藤	安藤	佐藤	名倉	浅倉	竹下	片桐	吉川	土井	森下	中村	村松	倉山	丹羽	梅林	梅林	山下	川上	小倉
結宇	梨沙	実希	幸希	柚風	越琉	真央	実この	琴羽	明依	悠翔	煌斗	良祐	大碧	朋宏	輪心	莉瑚	成紗	成琉	和	京磨	蓮叶	ことね	奏来	希来	咲里	千晴	結愛
浜松市	袋井市	掛川市	磐田市	磐田市	磐田市	磐田市	森町	掛川市	菊川市	浜松市	浜松市	袋井市	磐田市	磐田市	袋井市	湖西市	磐田市	掛川市	袋井市	磐田市	掛川市	菊川市	浜松市	浜松市	森町	袋井市	浜松市
北谷	加藤	山本	伊藤	鈴木	登坂	廣岡	高田	小澤	鈴木	山本	山本	北川	原口	武蔵	酒井	谷口	中村	鈴木	鈴木	大石	関谷	松下	小田	民谷	松下	白岩	菅沼
奏太郎	孝太郎	楓真	彩心	彩楓	柚希	征太郎	想太	奏太	汰河	優月	剛琉	楓夏	湊朝	島来樹	快太	紗永	緋月	那雅	那奈	桃花	優那	怜大	洸太	優希	湮駆	乃花	弥央
磐田市	森町	御前崎市	袋井市	磐田市	森町	袋井市	浜松市	袋井市	磐田市	袋井市	袋井市	掛川市	御前崎市	森町	浜松市	磐田市	磐田市	袋井市	袋井市	浜松市	浜松市	磐田市	富士市	袋井市	森町	菊川市	森町

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

山出	吉筋	吉筋	松山	倉見	富田	山崎	山下	小野	小澤	三石	平山	佐藤	織部	吉筋	御室	富田	久保	松島	松島	縣	節家	安藤	大石	鈴木	村松	杉本	西原
夢莉	大折	智紀	和騎	奏翔	莉仔	結真	雄大	七海	虎太郎	澄奈	悠生	結心	遥香	璃乃	有理奈	寧音	楓理	蒼	彩花	里奈	幸歩	豪琉	幸希	柚希	遼心	愛莉	
名古屋市	森町	森町	袋井市	菊川市	菊川市	掛川市	掛川市	袋井市	掛川市	袋井市	袋井市	森町	菊川市	袋井市	袋井市	焼津市	磐田市	磐田市	浜松市	吹田市	豊田市	掛川市	浜松市	菊川市	森町	島田市	

# まつり歳時記

十二月～三月

## 十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 十九日 鎮火祭 (午後三時)
- 二十三日 天長祭 (午前九時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 三十一日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

## 二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元祭 (午前十時半)
- 十五日 霊社聖王社白山社例祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)

## 一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前三時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追儺祭 (午前八時)
- 三日 田遊祭 (午後一時)
- 六日 本宮山例祭 (午前十時)
- 七日 昭和天皇祭遙拝式 (午前八時)
- 七日 神明宮参拝 (午前九時)
- 十一日 手鉾始祭 (午前九時)
- 十四日 甲子祭 (午前九時)
- 十五日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前八時半)
- 十七日 どんど焼祭 (午前九時)
- 十七日 御弓始祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 二月三日 厄除大祭

## 三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
  - 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
  - 十五日 初甲子祭 (午前九時)
  - 十八日 月次祭 (午前九時)
  - 十八日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
  - 十八日 鉾執社例祭 (午後一時半)
  - 二十一日 春季皇霊祭遙拝式 (午前八時)
- 〔例祭日程のお知らせ〕
- 四月 十七日 前日祭 (午前十時)
  - 十七日 舞楽奉奏 (午後二時)
  - 十八日 例祭 (午前十一時)
  - 十八日 舞楽奉奏 (午前十一時)
  - 十八日 神幸祭 (午後二時)

### 師走の大祓

十二月三十一日午後三時より師走(年越)の大祓式を斎行いたします。

当日、ご参列いただければ神職とともにお祓いをお受けいただけますので、是非ともご家族の皆様お揃いでお申し込みの上、ご参列いただきますよう、ご案内申し上げます。

尚、大祓の人形は一ヶ月前より、御祈禱をお受けいただきました方々に、または社頭にてお頒けいたしております。ご希望の方は当社までお問い合わせ下さい。

皆様と一緒にお祓いをして、清々しく新たな気持ちで新年を迎えましょう。

小國神社社務所 大祓係

TEL 〇五三八一八九一七三〇二  
FAX 〇五三八一八九一七三六七



師走の大祓 (12月31日)

### 古代の森シリーズ 27

#### 長歌「詞珠衣」

著者である小國重年は当社代々の神主家出身で近世において祭祀の確立、境内の植林をはかった人物であり、本居宣長の門人として平田篤胤とも交友があった国学者です。代表作となった長歌「詞珠衣」は万葉集・記紀の長歌の歌格を研究したものであり第六巻に結実します。その功績は後の歌格研究の発展に大きな影響を与え、学会の評価も高くその原本は町指定文化財となっています。



長歌「詞珠衣」

## 新春祈禱のご案内

平成二十二年の新春祈禱を例年通りご奉仕いたします。  
当日の受付は混雑が予想されますので、年内の予約受付をご利用ください。

尚、個人の祈禱は当日受付にて毎日ご奉仕いたしております。  
ご家族お揃いでご参拝くださいませようご案内申し上げます。



正月の拝殿前（平成21年1月1日）



どんど焼（平成22年は1月17日に斎行）

- 一、 予約対象 会社及び個人事業者
- 一、 申込方法 電話またはFAX等にて申し受けます。
- 一、 ご相談、ご不明の点がありましたら、左記までお問い合わせください。

小國神社 新春祈禱予約係  
TEL ○五三八一八九一七三〇二  
FAX ○五三八一八九一七三六七

## 厄除大祭のご案内

一月二十日～二月三日

人生の節目に当たる厄年は、健康、仕事、私生活などあらゆる面で難に言いやすい年頃といわれ、無事を願う気持ちは今も昔も変わりません。

小國神社では一月二十日より二月三日まで厄除大祭を執り行います。平成二十二年の厄年に当たる方は、「厄除」のご祈禱をお受けになり、健やかな日々の生活をお過ごしください。

尚、二月三日は混雑いたしますのでお早めにお越しくださいませようご案内申し上げます。

○祈禱料 五、〇〇〇円より  
○厄除大祭神札及び御守を授与いたします。

○祈禱受付 午前九時～午後四時

### 一平成22年 厄年表一

男	前厄	本厄	後厄
	昭和26年 60才	昭和25年 61才	昭和24年 62才
性	昭和45年 41才	昭和44年 42才	昭和43年 43才
	昭和62年 24才	昭和61年 25才	昭和60年 26才
女	前厄	本厄	後厄
	昭和50年 36才	昭和49年 37才	昭和48年 38才
性	昭和54年 32才	昭和53年 33才	昭和52年 34才
	平成5年 18才	平成4年 19才	平成3年 20才



徳川家康公は、戦の際に「あとは神力にたよるのみ」と当社で祈願をいたしました。その後数々の合戦に勝利し、天下統一を果たしたのです。

○初穂料 八〇〇円

「勝ちまもり」  
「勝守」  
新春より授与



紅葉の朝陽（11月23日）



静岡国民文化祭「遠州森町の祭と芸能」(古式舞楽保存会出演・11月7日)

「小國の杜・点描」



静岡国民文化祭「田遊びの祭典」(田遊び神事保存会出演・11月8日)



書家・森田啓司氏(真中)書一幅「神力」ご奉納(平成21年11月22日)



氏子青年会「夏フェスタ」開催(7月26日)

平成二十一年十一月十八日  
 「玉垂」(たまだれ) 第二十七号  
 題字揮毫 神社本廳前総長 工藤 伊豆  
 発行 小國神社社務所  
 郵便番号 四三七一〇二二六  
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一  
 電話番号 〇五三八(八九) 七三三〇二  
 FAX 〇五三八(八九) 七三三六七  
 印刷 (有)デザインオフィス エム・エス・シー

平成二十年十一月四日(水)午前十一時に竣功となりました「齋館並びに参拝者休憩所」を撮影いたしました。新しい屋根の銅板に陽があたると目映いはかりです。神社の主要な施設として、多目的に活用されます。

表紙写真について

〇「玉垂」二十七号をお届けいたします。秋の祭行事を中心にご報告させて頂きました。静岡県にて開催された「国民文化祭」には当社の各保存会が出向いたしました。それぞれに練習の成果が当日は発揮された様子でした。〇今年も石蕨がきれいに咲きました。黄色の花が終わるといよいよ師走という感じがします。季節は着実に訪れますが、早春の花が咲くのをいまから楽しみにしています。

編集後記



開運だるまの授与  
(平成22年1月1~5・9・10日の予定)